

令和5年度

事業概要

にぎわいスポーツ文化局

目 次

	ページ
I 令和5年度 にぎわいスポーツ文化局 運営方針	2
○ 基本目標	
○ 目標達成に向けた施策	
○ 目標達成に向けた組織運営	
○ 予算概要	
II 令和5年度 にぎわいスポーツ文化局 主要事業	5
1 観光・MICEの振興	5
(1) 持続可能な観光・MICE推進体制の構築と観光・MICE産業の活性化	
(2) 魅力あふれる観光コンテンツの創出	
(3) 戦略的な誘客プロモーション	
(4) グローバルMICE都市としての競争力強化と魅力向上	
2 スポーツ環境の充実	8
(1) スポーツに親しむ環境づくり	
(2) スポーツを通じた共生社会の実現	
(3) 大規模スポーツイベントの誘致・開催等による地域経済活性化	
(4) 横浜文化体育館の再整備等スポーツによる地域活性化	
3 市民に身近な文化芸術創造都市の推進	11
(1) 文化芸術を通じた次世代育成と共生社会実現に向けた取組	
(2) 文化芸術による街のにぎわいの創出と国内外への発信	
(3) 歴史と創造性を生かしたまちづくり	
(4) 市民の文化芸術活動への支援と環境整備	
◆トピックスⅠ 横浜市中期計画の基本戦略実現に向けた次世代育成の取組◆	15
◆トピックスⅡ 共生社会実現に向けた取組◆	16
◆トピックスⅢ デジタル技術を活用した取組◆	17
◆トピックスⅣ 脱炭素社会の実現に向けた取組◆	18
III 令和5年度 にぎわいスポーツ文化局 予算総括表	19
IV 予算科目別内訳	20
1 スポーツ振興費	20
2 文化観光総務費	22
3 文化芸術創造都市推進費	23
4 文化プログラム推進費	26
5 観光MICE振興費	27

I 令和5年度 にぎわいスポーツ文化局 運営方針

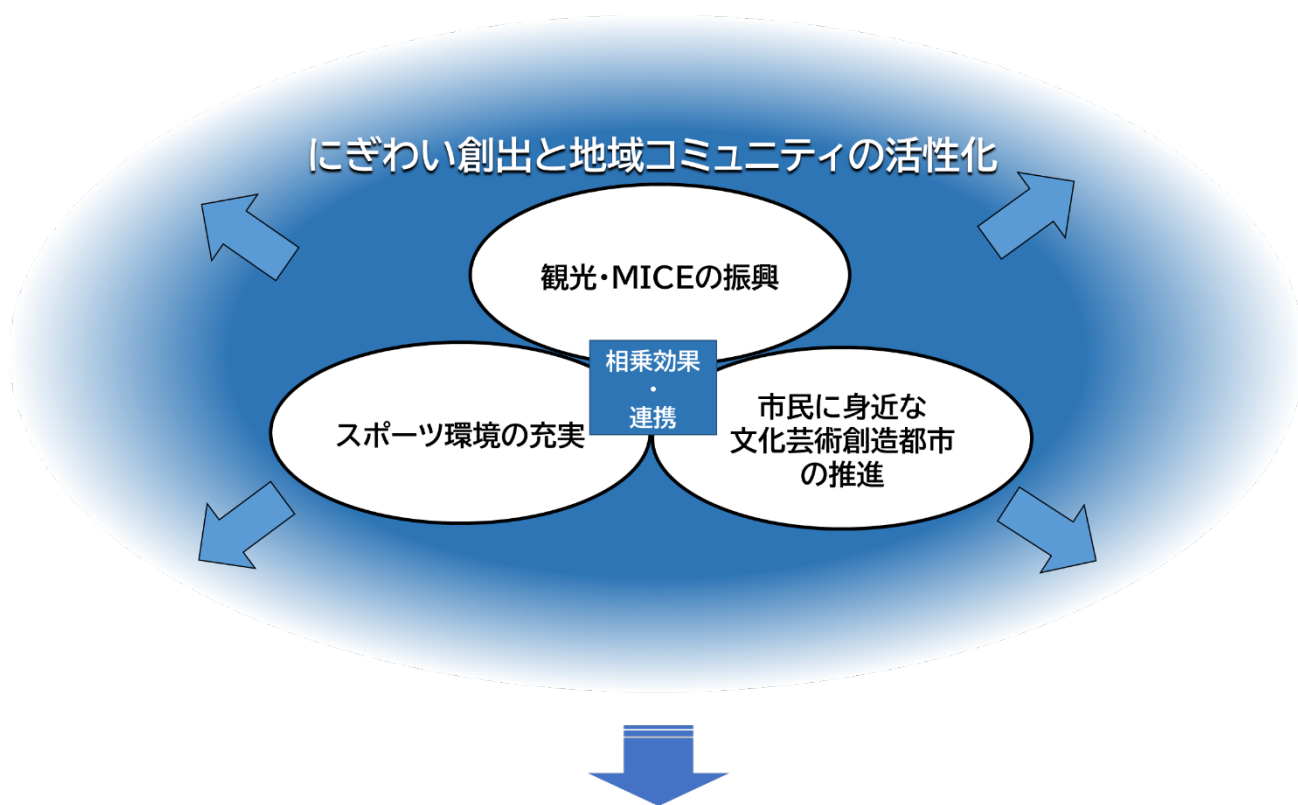
基本目標

観光・MICE、スポーツ、文化施策の一元的な推進による
にぎわいの創出と地域コミュニティの活性化

目標達成に向けた施策

観光・MICE、スポーツ、文化施策を一元的に推進する体制を整え、相乗効果を生み出しながら、マーケティングに基づく国内外からの誘客、都心臨海部における大規模イベント等に合わせた戦略的な宿泊・回遊促進、地域に根差したスポーツ・文化活動の更なる振興に、局一丸となって取り組みます。

横浜市中期計画2022～2025 基本戦略「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」や「選ばれる都市」「住みたい・住み続けたい都市」の実現に向けて、3つの柱を軸に、次世代育成や共生社会実現、デジタル技術の活用、脱炭素を意識しながら、施策を展開します。



横浜市中期計画2022～2025
基本戦略「子育てしたいまち 次世代をともに育むまち ヨコハマ」
「選ばれる都市」「住みたい・住み続けたい都市」の実現

1 観光・MICEの振興

観光・MICE施策では、DMO(※)を中心とした多様な関係者による推進体制を構築し、マーケティングに基づく戦略的なプロモーションによる国内外からの誘客促進や、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等のMICE誘致・開催支援を進めるとともに、持続可能な観光・MICE都市の実現を目指します。また、音楽アリーナの集積等を契機に、イベント主催者や商業施設等と連携したにぎわい創出の仕組みづくりや、アフターコンベンションの充実に取り組み、来訪者の市内宿泊促進・回遊性向上や観光消費拡大につなげます。

(※) 観光地域づくり法人 (DMO : Destination Management/Marketing Organization) (観光庁定義)

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行うかじ取り役となる法人

2 スポーツ環境の充実

スポーツ施策では、年齢や性別、障害の有無、国籍等にかかわらず、誰もがともに「する」「みる」「ささえる」スポーツを身近な場所で楽しめる機会を提供することで、市民の皆様の健康増進や生きがいづくりを進めるとともに、共生社会の実現や地域コミュニティの活性化につなげます。また、大規模スポーツイベントの誘致・開催や市内トップスポーツチームとの連携により交流人口の増加を図るとともに、横浜文化体育館再整備事業等を進め、スポーツ施設を中核とした市民活動の活性化を図るなど、スポーツ都市横浜の実現に向けて、まちのにぎわいや活力を創出します。

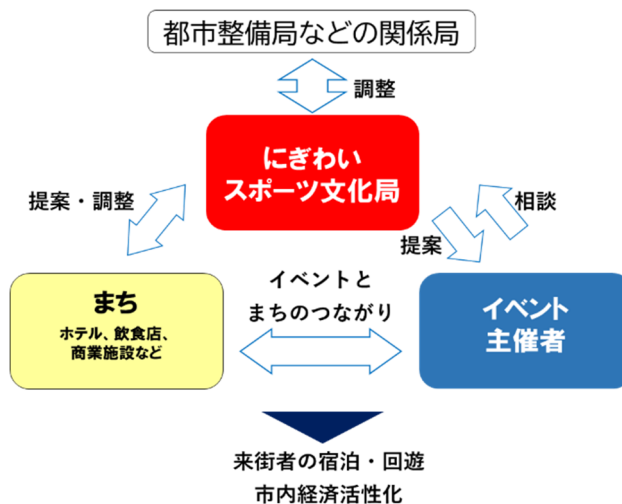
3 市民に身近な文化芸術創造都市の推進

文化芸術創造都市施策では、子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域で文化芸術に親しむ機会の拡充を図るとともに、地域特性等に応じた区民文化センターの整備や機能強化など、文化芸術活動の基盤づくりを進め、ファミリー層をはじめとする市民の皆様の心豊かな生活の実現と地域コミュニティの活性化につなげます。また、リニューアルオープンする横浜美術館等を会場とする現代アート国際展「第8回横浜トリエンナーレ」や、ダイナミックな光と音楽の演出で都市の新たな夜景を街ぐるみで創り出すイルミネーション事業などを開催します。さらに、歴史的建造物や公共空間等を活用し、都心臨海部における都市空間の優位性と文化芸術の創造性を生かした横浜らしい魅力を創出するとともに、多くの市民の皆様に親しまれるまちづくりを進めます。

にぎわい創出の取組「大規模集客イベント開催にあわせた宿泊・回遊施策の推進」

横浜には、大規模なアリーナやスポーツ施設、MICE施設、文化施設、そして複数のプロ・スポーツチーム等、にぎわいづくりにつながる「横浜ならではの」環境が整っています。

この環境を十分に活かし、スポーツやライブ・エンタテインメントなどの大規模集客イベント前後の宿泊・回遊促進策を積み重ね、さらなるにぎわいを創出し、市内経済の活性化につなげます。



目標達成に向けた組織運営

共感・協働を大切に

現場の声をしっかりと受け止めるとともに、市民、企業、NPO等の皆様との対話を重ねることで信頼関係を築きます。また、関係機関・区局統括本部と連携し、分野の垣根を超えて施策を推進することで、横浜の魅力さをさらに高め、にぎわいと活気にあふれた、ワクワクする都市・横浜を創ります。

新たな発想で チャレンジする

基本目標達成に向けた施策の推進と持続可能な財政の健全性確保を両輪で進められるよう、職員一人ひとりが「市民目線」「スピード感」「全体最適」の視点を持ち、データを活用しながら、前例にとらわれない新たな発想により、市民の皆様のため、横浜のためにチャレンジし続けます。

人材育成と 職場づくり

職員一人ひとりが意欲・能力を発揮し、チャレンジすることができる人材を育成するとともに、業務や職位を越えて活発な議論ができる風通しの良い職場づくりを推進します。また、デジタル技術を活用することで業務の効率化を図り、働きやすい職場づくりを推進します。

予算概要

(1) 予算額

令和5年度のにぎわいスポーツ文化局の一般会計予算額は、230億1,592万円、対前年度32億2,772万円(12.3%)の減となっています。

主な減額理由は、横浜みなとみらいホール大規模改修事業の終了によるものです。

区 分	5年度予算額	4年度予算額	増 減
一般会計	230億1,592万円	262億4,364万円	△32億2,772万円 (12.3%)

(内訳は19ページのにぎわいスポーツ文化局予算総括表をご覧ください。)

(2) 予算の概要 < 施策を推進する3つの柱 >

1 観光・MICEの振興 【横浜市中期計画2022～2025 政策22】

- (1) 持続可能な観光・MICE推進体制の構築と観光・MICE産業の活性化
- (2) 魅力あふれる観光コンテンツの創出
- (3) 戦略的な誘客プロモーション
- (4) グローバルMICE都市としての競争力強化と魅力向上

2 スポーツ環境の充実 【横浜市中期計画2022～2025 政策8】

- (1) スポーツに親しむ環境づくり
- (2) スポーツを通じた共生社会の実現
- (3) 大規模スポーツイベントの誘致・開催等による地域経済活性化
- (4) 横浜文化体育館の再整備等スポーツによる地域活性化

3 市民に身近な文化芸術創造都市の推進 【横浜市中期計画2022～2025 政策30】

- (1) 文化芸術を通じた次世代育成と共生社会実現に向けた取組
- (2) 文化芸術による街のにぎわいの創出と国内外への発信
- (3) 歴史と創造性を生かしたまちづくり
- (4) 市民の文化芸術活動への支援と環境整備

Ⅱ 令和5年度 にぎわいスポーツ文化局 主要事業

1 観光・MICEの振興

(1) 持続可能な観光・MICE推進体制の構築と観光・MICE産業の活性化

DMO推進事業 <拡充> 1億2,142万円（前年度：2,650万円） p.28

登録DMOとなった（公財）横浜観光コンベンション・ビューローが中心となり、観光地域づくりフォーラムを開催し、多様な関係者を巻き込んだ体制を構築します。

また、人流データの分析や、来訪意欲調査等の様々な調査を実施するなど、DMOのマーケティング機能を強化し、戦略的な施策を展開します。

(2) 魅力あふれる観光コンテンツの創出

戦略的賑わい創出事業 <新規> 7,900万円（前年度：－） p.27

音楽アリーナの集積等を契機に、多くの人が集まるイベントを活用した戦略的な宿泊・回遊促進策に取り組むことで、にぎわいを創出し、市内経済の活性化に結び付けます。

コンサート、エンタテインメント、スポーツなどのイベント主催者や商業施設等の民間事業者と連携したプロモーションなどを行い、イベント前後の回遊を促進させるとともに、宿泊事業者と連携し、イベント開催時の宿泊につなげるなど、様々な事業者が参画し、にぎわいを創出する仕組みづくりを進めます。

三溪園施設整備等支援事業 1億9,771万円（前年度：1億8,241万円） p.27

重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、工期を3期に分け、緊急度の高い建造物から実施しています。5年度は、旧東慶寺仏殿及び月華殿の工事に対し支援します。

また、観光施設としての機能強化に向けた用途制限の緩和や、季節に応じた催事の創意工夫などの新たな魅力創出に取り組みます。



【旧燈明寺三重塔（重要文化財）】



【5年に及ぶ修理を終えた臨春閣（重要文化財）】

(3) 戦略的な誘客プロモーション

戦略的誘客プロモーション事業 《拡充》

2億4,864万円（前年度：1億1,946万円） p.27

◇国内誘客

リピーターをはじめ、旅行客の獲得に向けた市内観光施設の割引等の観光キャンペーンや旅行会社向けの地方セールスを実施します。常に新しい発見があり何度でも訪れたいくなる横浜の魅力を発信するとともに、閑散期の需要喚起策等により、年間を通じた市内宿泊や回遊を促進します。

◇海外誘客

航空便や各国の訪日市場の回復状況などを踏まえ、OTA(※1)等を活用した戦略的なデジタルプロモーションを行い、市内へのインバウンド誘客を図ります。

また、観光レップ(※2)による情報発信や現地旅行会社へのセールス・プロモーション、商談会への参加等を実施します。加えて、クルーズ・フレンドリー・プログラムを実施し、クルーズ旅客等の市内回遊を促進します。

◇情報発信

横浜の観光公式ウェブサイト「横浜観光情報」やSNS等を活用して、国内外に向けて横浜の観光・MICEに関する情報を発信します。



【米国レップが参加した Cruise World 2022
フロリダ州で開催された、北米最大級のクルーズ専門見本市・商談会】



【OTAプロモーションイメージ（中国 Ctrip）】



(※1) OTA（オンライントラベルエージェント）：ホテル、航空券、国内外旅行の予約など、インターネット上だけで取引を行う旅行会社。

(※2) 観光レップ(rep)：英語の Representative の略。代理店の意味合い。自治体や事業者の代理を旅行会社や広告代理店等に委託し、現地の海外旅行市場の調査分析や観光情報の発信等を行う。

(4) グローバルMICE都市としての競争力強化と魅力向上

MICE誘致・開催支援事業

3億8,591万円（前年度：8億1,089万円） p.28

◇MICE開催支援・受入環境整備

ウォーターフロントを活用するなど、横浜ならではの回遊ツアーや体験型コンテンツの造成などにより、MICE参加者の来訪を促すとともに、回遊性向上を目的としたアフターコンベンションの充実に取り組めます。

また、セミナー開催等による市内MICE関連産業の育成や商談会の実施など、市内事業者のビジネス機会の創出につなげます。



【「第8回アジア栄養士会議」
4年8月・ハイブリッド開催 於：パシフィコ横浜】

◇MICE誘致

海外におけるセールス活動や主催者とのネットワーク構築、主催者・参加者双方の来訪意欲を喚起するプロモーション等を強化するとともに、助成金等を活用して誘致活動を推進します。

◇MICE次世代育成事業

子どもたちが将来の進路について考える機会を提供するため、国際会議等の開催に合わせ、最先端の技術や情報に触れられる講演やワークショップ等を開催します。

◇MICE・観光集客等イベント支援

横浜の歴史と魅力を生かした大規模集客イベント等に対し、開催支援を行います。

20 街区MICE施設整備運営事業

32億9,799万円（前年度：32億9,790万円） p.28

「パシフィコ横浜ノース」について、PFI事業により維持管理及び運営を行います。

新たな顧客開拓・市場創出に取り組み、地域経済の発展・にぎわい創出へ貢献します。



【パシフィコ横浜ノース 外観】

2 スポーツ環境の充実

(1) スポーツに親しむ環境づくり

子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業 《新規》 1,500万円（前年度：－） p.20

子どもや子育て世代のスポーツ活動を促進するため、児童生徒を対象としたパラリンピアンやラグビー選手による学校訪問を実施します。また、子育て世代が気軽に安心してスポーツに取り組める環境を作るため、親子で共に楽しめるスポーツ体験会を開催します。



【パラリンピアンによる学校訪問】



【親子ラグビー教室】

市民参加型スポーツ推進事業 《拡充》 1,718万円（前年度：1,569万円） p.20

市民が身近な場でスポーツに親しめる環境づくりを推進するため、「第62回1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」等の市民参加型スポーツイベントの開催支援をするとともに、デジタル技術を活用した新たなスポーツに触れる機会を創出します。



【1000万人ラジオ体操
・みんなの体操祭】

【第62回1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭 概要】

日時：5年8月20日（日）

場所：＜晴天会場＞赤レンガパーク ＜荒天会場＞横浜武道館

横浜マラソン開催事業 1億120万円（前年度：1億100万円） p.20

子どもから大人まで誰もが参加でき、「する」「みる」「ささえる」すべての人が楽しめる大会を開催することで、市民の健康増進やまちのにぎわいづくりを図ります。

【横浜マラソン2023 概要】

日時：5年10月29日（日）

場所：横浜ランドマークタワー前（スタート）～
横浜南部市場前（折り返し）～
首都高速湾岸線～臨港パーク（フィニッシュ）



【横浜マラソン2022】

種目・募集人数：

種目	募集人数
フルマラソン	24,500人
ペアリレー【新規】	150組300人
みなとみらい7kmラン	3,000人
車いすチャレンジ	100人
ファンラン（ファミリー）【新規】	50組100人
ファンラン（中学生）【新規】	100人
合計	28,100人

(2) スポーツを通じた共生社会の実現

インクルーシブスポーツ推進事業 《拡充》 1,111万円（前年度：1,071万円） p.20

年齢や性別、障害の有無、国籍等にかかわらず、ともにスポーツを楽しめるインクルーシブな場をつくり、様々な人が多様性を認め合うことで、スポーツを通じた共生社会の実現を目指します。

また、パラスポーツを推進することで、障害者がスポーツに参加する機会を提供し、障害者のスポーツ実施率を向上させます。

(3) 大規模スポーツイベントの誘致・開催等による地域経済活性化

大規模スポーツイベント等開催支援事業 《拡充》

1億 148万円（前年度：6,716万円） p.21

「2023 ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」をはじめとする、大規模スポーツイベントの誘致・開催支援等を行うことで、トップアスリートの競技を観戦できる機会を創出するとともに、多くの来訪者の市内回遊を促進し、地域経済の活性化につなげます。



【2023 ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会】



【日米対抗ソフトボール 2022】

トップスポーツチーム連携事業

447万円（前年度：471万円） p.21

横浜を本拠地とする13のトップスポーツチームとの連携・協働体制である「横浜スポーツパートナーズ」を通じて、スポーツ振興や地域活性化につながる様々な取組を推進します。

◇市民のスポーツ振興事業

チームの情報を掲載した広報紙や市外からの転入者向けの試合観戦招待等による広報、スポーツ教室等を通じてスポーツ振興を図るとともに、チームをより身近に感じてもらうイベントによるにぎわい創出につなげます。



【トップスポーツチームによるスポーツ教室】

◇各区とチームの連携事業費

トップスポーツチームによる地域イベントへの出演やスポーツ教室の実施などを通じてスポーツ振興や地域活性化に取り組みます。

スポーツボランティア育成事業

581万円（前年度：597万円） p.21

横浜市スポーツ協会が運営する「横浜市スポーツボランティアセンター」を通じてボランティアの登録・育成・活用を行います。

また、横浜市スポーツ協会や競技団体が開催する講習会等を通じて地域のスポーツ人材育成を推進します。



(4) 横浜文化体育館の再整備等スポーツによる地域活性化

横浜文化体育館再整備事業

21億 474万円（前年度：9億 213万円） p. 21

スポーツ庁・経済産業省から多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナに選定された横浜文化体育館再整備事業を進めます。

「する」「みる」「ささえる」スポーツの中核施設として、日常的な市民利用から大規模なイベント利用まで、市民のスポーツ参加の場とするとともに、関内・関外地区のにぎわいの拠点とします。



【横浜BUNTAI 外観完成イメージ】

屋外プール再整備事業

4億 782万円（前年度：2,500万円） p. 21

本牧市民プールは、夏季のプール利用だけでなく、バーベキューやSUP（サップ）といったアウトドア体験など、1年を通じた利用により、広く市民に親しまれる施設として再整備し、5年7月の供用開始に向けた準備を進めます。



【本牧市民プール 完成イメージ】

横浜国際プール利活用検討事業 《新規》

1,000万円（前年度：－） p. 21

横浜国際プールは供用開始から24年が経過し、設備等の更新が必要な時期となっています。この機を捉え、まちづくりの観点も踏まえながら、今後の施設のあり方について検討し、利活用の基本計画を策定します。

3 市民に身近な文化芸術創造都市の推進

(1) 文化芸術を通じた次世代育成と共生社会実現に向けた取組

芸術文化教育プログラム推進事業

3,494万円（前年度：3,494万円） p.24

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、学校の先生とアーティストのコーディネートを担当することで、各学校の目的に沿った効果的なプログラムの実施を支援します。



【峯小学校：美術(造形)のプログラムの様子】

(2) 文化芸術による街のにぎわいの創出と国内外への発信

横浜トリエンナーレ事業 <拡充> 4億1,500万円（前年度：1億2,500万円） p.26

我が国を代表する現代アートの国際展、「第8回横浜トリエンナーレ」を開催します。

ひらかれた現代アートの祭典として、ファミリー層や将来を担う子どもたちが気軽にアートに触れる機会を提供することで、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

また、地域の企業・団体と協力し、みなとまち横浜の歴史や景観などのリソースをこれまで以上に活用することで、都心臨海部のサテライト会場などを回遊しながら楽しめる展覧会とし、街のにぎわいを創出します。

【第8回横浜トリエンナーレ 概要】

開催期間：6年3月15日（金）～6月9日（日）（約80日間）

会場：横浜美術館 ほか

アーティスト・ディレクター：リウ・ディン（刘鼎）とキャロル・インホワ・ルー（盧迎華）



【ヨコハマトリエンナーレ2020

学校団体鑑賞の様子】



【エヴァ・ファブレガス《からみあい》2020

ヨコハマトリエンナーレ2020 展示風景】

(3) 歴史と創造性を生かしたまちづくり

創造界隈形成事業

2億8,620万円（前年度：2億9,917万円） p.23

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を活用した創造界隈拠点として、旧第一銀行横浜支店、BankART1929（文化芸術創造発信拠点）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、初黄・日ノ出町地区（地域再生まちづくり）、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）の運営・管理を行い、創造的な人材や地域との連携を通して、まちづくりを進めます。

また、旧第一銀行横浜支店は、新たな運営事業者を公募します。

創造的イルミネーション事業

4億円（前年度：3億8,800万円） p.23

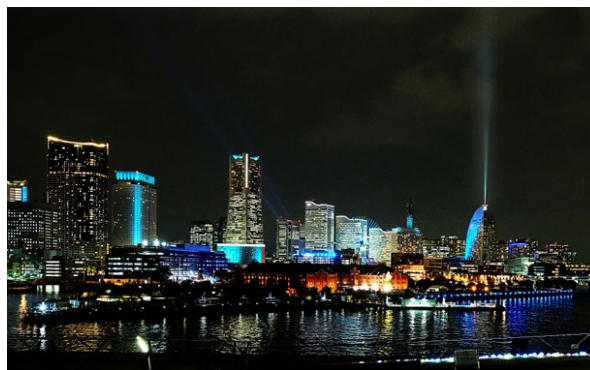
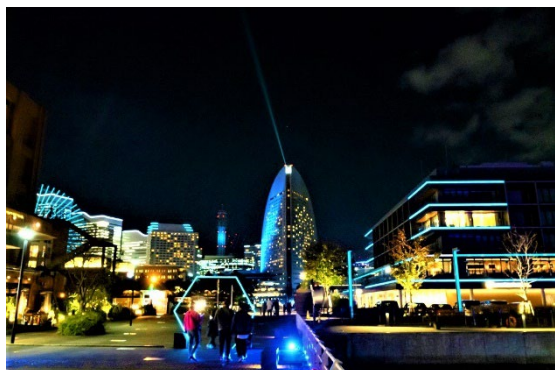
横浜のナイトタイムエコノミー活性化の契機とするため、都心臨海部において先端技術を用いた光と音楽の演出により、横浜ならではの港の夜景を官民一体で創出します。

よりダイナミックな演出とするため、参加施設数を増やすとともに、イベントと併せ、来場者に夜の横浜を楽しんでいただけるよう、地域のイルミネーション等と連携した街の回遊促進の取組も実施します。

【開催概要】

開催期間：5年11月下旬～6年1月上旬（予定）

会場：都心臨海部（ビューポイント 大さん橋 等）



【街全体の光の演出風景（4年度）】

創造都市推進事業 <拡充>

6,204万円（前年度：3,554万円） p.23

日本最大規模のジャズフェスティバルである「横浜 JAZZ PROMENADE」の開催を引き続き支援し、民間事業者等と連携しながら、来街者の回遊性の向上や、街のにぎわい創出につなげます。

また、国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場として「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を開催し、都心臨海部の活性化を図るとともに、横浜発の舞台芸術を発信することで、「文化芸術創造都市・横浜」としてのプレゼンスを高めます。



【横浜 JAZZ PROMENADE

イセザキ・モール1・2st. BRASS パレード】

(4) 市民の文化芸術活動への支援と環境整備

地域文化サポート事業

3,100万円（前年度：3,300万円） p.24

地域課題の解決にアプローチするため、文化芸術のもつ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を公募し、支援します。

また、季刊誌「ヨコハマアートサイト」の発行やウェブサイト・実施レポート等による広報、まちづくり等さまざまな分野と文化芸術の関わりについての意見交換を行う研修等を通して、参加団体をサポートします。



【中区若葉町 WHARF まちなかギャラリー】



【青葉区スペースナナ のんびりアートディ】

文化施設運営事業

34億9,252万円（前年度：36億6,475万円） p.24

関内ホール、横浜にぎわい座、市民ギャラリー等、計15の文化施設において、市民の皆様の文化芸術に触れる機会の充実を図るとともに、次世代を担う子どもたちが多様な文化芸術に親しめるよう施設運営を行います。併せて、質の高い公演等を実施し、横浜の魅力を内外へ発信します。

市民の皆様が施設を安全に利用できるよう老朽化等に対応する修繕を実施するほか、利便性向上のため、キャッシュレス決済等の新たな機能を装備した市民利用施設予約システムを稼働します。

また、区民文化センターでは、鶴見区で天井耐震化に向けた工事を行います。



【久良岐能舞台「4歳からの能楽」】

文化施設整備事業

5億7,900万円（前年度：15億292万円） p.25

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うことができるよう、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備します。

港北区では、6年3月の開館に向けた準備を進めるとともに、床取得費の支払いを完了します。都筑区では、しゅん工に向けた工事の調整を引き続き事業者と行います。

また、金沢区では、金沢区における区民文化センター基本構想を踏まえた基本設計に着手します。

- ・港北区：床取得費等 5億3,620万円
- ・都筑区：設計施工アドバイザー等 380万円
- ・金沢区：基本設計費等 3,900万円



【港北区民文化センター ホール完成イメージ】

横浜能楽堂大規模改修事業

8,814万円（前年度：8,132万円） p.25

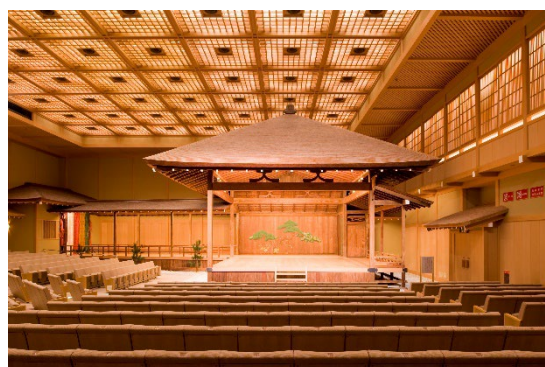
利用者の安全を確保するため、能舞台のある客席の天井の耐震化に向けた工事に加え、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図ります。

5年度は、工事に着手します。

総工事費：約29億円

工事期間：6年1月～7年度中

※工事による休館期間中は事務所を移転し、アウトリーチ事業等を実施予定



【横浜能楽堂本舞台「旧染井能舞台」】

横浜美術館大規模改修事業

67億4,668万円（前年度：62億9,530万円） p.25

美術作品を展示、保存するうえで重要な空調設備をはじめ、電気や衛生設備等の設備機器が老朽化しているため、長寿命化を図ります。

また、展示環境の改善や、高齢者、障害者等のためのバリアフリー対応、収蔵庫の拡張等を行います。

5年度は引き続き改修工事を行います。

総工事費：約120億円

工事期間：3年10月～5年度中

※工事による休館期間中は「プロット48」（みなとみらい21中央地区48街区）等で市民向けワークショップ等を実施



【横浜美術館 外観】

◆トピックス I 横浜市中期計画の基本戦略実現に向けた次世代育成の取組◆

◆子育て世代のスポーツ活動支援事業

(子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業の一部) p. 20

子育て世代が気軽に安心してスポーツに取り組める環境を作るため、託児サービス付きイベントや親子で楽しめるスポーツ体験会を開催します。



【親子スポーツ体験】

◆スポーツ分野における学校訪問事業

(子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業の一部) p. 20

ラグビーワールドカップ 2019[™]や東京 2020 大会を契機として、さらなるスポーツ振興につなげるため、児童生徒を対象としたパラリンピアンやラグビー選手による学校訪問を実施します。



【ラグビー選手による学校訪問】

◆芸術文化教育プログラム推進事業【再掲】 p. 24

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。



【第76回全日本学生音楽コンクール
全国大会 in 横浜】(毎日新聞社提供)

◆クラシック・ヨコハマ推進事業 p. 24

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供することを目的とし、国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」を核に、様々なコンサートを開催します。

◆横浜トリエンナーレにおける取組(横浜トリエンナーレ事業の一部) p. 26

子どもたちが気軽に参加できるワークショップなど、アートを通じて様々な表現に触れる機会を設けることで、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

◆文化施設における取組(文化施設運営事業の一部) p. 24

市民ギャラリーあざみ野では、親子が一緒に描いたりつくったりすることを楽しみながら自発的な意欲を育むことを目的とした「親子のフリーゾーン」を行います。

また、久良岐能舞台では、能舞台での礼儀作法を教える講座「4歳からの能楽」を行います。



【市民ギャラリーあざみ野
「親子のフリーゾーン」】

◆映像文化都市地域貢献事業(映像文化都市づくり推進事業の一部) p. 23

市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科の高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を実施し、映像文化における次世代育成等を推進します。

◆トピックスⅡ 共生社会実現に向けた取組◆

◆ユニバーサルツーリズムの推進（受入環境整備事業の一部） p. 27

障害の有無や年齢等に関わらず全ての方々が横浜観光を楽しめるよう、観光施設・宿泊施設のバリアフリー対応状況や、子育て世代に求められる授乳室等の情報、車椅子やベビーカーでも移動しやすいモデルルート等について情報発信を行います。

また、市内観光関連事業者向けセミナーを継続し、「心のバリアフリー」の浸透を図ることとで、ユニバーサルツーリズムを推進します。

◆地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業

（インクルーシブスポーツ推進事業の一部） p. 20

年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、気軽に誰もがスポーツに親しむ機会を創出するため、ポッチャ等のインクルーシブスポーツの体験会・交流会を18区で実施します。

また、「横浜元気！！スポーツ・レクリエーションフェスティバル」では、パラスポーツ競技体験等を実施します。



【パラスポーツ（競技用車いす）体験】

◆パラスポーツ競技力向上事業（インクルーシブスポーツ推進事業の一部） p. 20

パラスポーツ競技力向上に向け、横浜市スポーツ協会、横浜市リハビリテーション事業団及び各競技団体で協働して、インクルーシブ水泳教室やパラ陸上タイムトライアルなどのモデル事業等を実施します。

◆横浜トリエンナーレにおける取組（横浜トリエンナーレ事業の一部） p. 26

新たな取組として、乳幼児連れの方なども気兼ねなく観覧できる「声を出しても良い観覧日」を設定するなど、誰もが現代アートを享受できる機会を創出し、相互理解や多様性を受け入れる豊かな社会の形成を目指します。

◆文化施設における取組（横浜美術館大規模改修事業及び文化施設運営事業の一部） p. 24、25

横浜美術館の大規模改修工事では、展示室やレクチャーホール等に、よりスムーズにアクセスできるよう、それぞれに近接した位置にエレベーターを設置するなど、障害の有無に関わらず、誰でも利用しやすいように改修します。

また、吉野町市民プラザでは、市内の障害者ダンスチームや年齢やジャンルを超えたダンスを愛する団体が参加するダンスイベント「FUN! FUN! FUN!」を開催します。



【吉野町市民プラザ「FUN! FUN! FUN!」】

◆トピックスⅢ デジタル技術を活用した取組◆

◆観光分野におけるデジタル技術の活用（DMO推進事業及び観光振興事業の一部） p. 28

人流・観光客の行動等をビッグデータにより分析し、ターゲティング、ニーズ・トレンド等を把握するデジタルマーケティングを行うことに加え、新たに都心臨海部の商業施設等にセンサーを設置し、インバウンドを含めた独自の人流データを分析します。

◆MICE分野における取組（MICE誘致・開催支援事業の一部） p. 28

主催者・参加者双方の来訪意欲を喚起するため、現地でしか体験できない横浜ならではのプログラムを紹介する動画コンテンツの拡充やWEB広告、SNSでの情報発信等、デジタルプロモーションを強化します。

◆イベント終了時における回遊性向上（YOKOHAMA HACK! 実証実験）

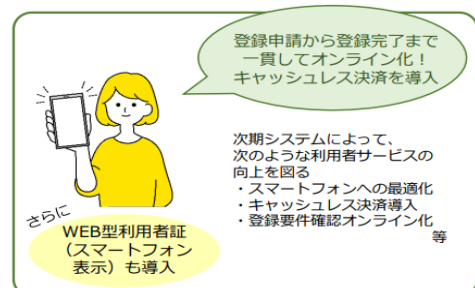
みなとみらい21地区で行われるイベントに併せ、デジタル技術を利用して地区内の飲食店情報等を提供し、来場者がまちへ回遊できる仕組みを構築する実証実験を行います。

◆市民利用施設予約システムの再構築

（市民利用施設予約システム事業及び文化施設運営事業の一部）

p. 21、24

新たな市民利用施設予約システムでは、登録料や施設利用料のキャッシュレス決済、各種手続きのオンライン化等の機能を追加するなど、文化施設やスポーツ施設等の利用者の利便性を向上します（5年秋に稼働予定）。



【新たな市民利用施設予約システム概要
（「横浜DX戦略」から抜粋）】

◆スポーツ分野における取組（市民参加型スポーツ推進事業の一部） p. 20

スポーツに触れる新たな機会を創出するため、ARやVR等を活用したスポーツ体験会等を実施します。

◆横浜トリエンナーレにおける取組（横浜トリエンナーレ事業の一部） p. 26

第8回展では、新たに人流計測システム等を導入し、これまで把握できていなかった無料作品観覧者数を計測し、横浜トリエンナーレによる街の賑わいの可視化を図り、今後のさらなるにぎわい創出につなげます。

◆トピックスⅣ 脱炭素社会の実現に向けた取組◆

◆横浜マラソンにおける取組（横浜マラソン開催事業の一部） p. 20

再生ポリエステルを使用した参加賞Tシャツの制作や、先導車への電気自動車の活用など、環境負荷の軽減に向けた取組を行っています。



【参加賞Tシャツを着用したランナー】



【排出ガスゼロの大会運営車両】

◆ワールドトライアスロンにおける取組（大規模スポーツイベント開催支援事業の一部） p. 21

ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会では、競技会場に山下公園前海域を使用していることから、より多くの方に地球環境、特に海の環境への意識を高めていただく機会とします。そこで、ブルーカーボン・クレジット等を活用したカーボン・オフセットや、参加者への「完走わかめ」配布による地産地消の取組などを積極的に実施しています。

また、2012年からイベントマネジメントの持続可能性に関する国際標準規格である「ISO20121」を取得しており、この国際規格を遵守した大会運営を行っています。

◆横浜国際プールESCO事業（スポーツ施設管理運営事業の一部） p. 21

高効率空調機器の増設や照明のLED化、太陽光発電設備の導入等により、省エネルギー化を図ります。

◆横浜トリエンナーレにおける取組（横浜トリエンナーレ事業の一部） p. 26

昨年度「Standard(スタンダード)」の認証を取得した「横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs」」のランクアップに向けて、更なる印刷物の抑制や、廃棄物の削減等を進めるとともに、作品制作における環境負荷の低減など、新しい脱炭素の取組を進め、国内外に発信していきます。

◆イルミネーション事業における取組（創造的イルミネーション事業の一部） p. 23

次世代自動車から電力供給した光の演出を取り入れるほか、使用した電力のカーボン・オフセットを行います。

◆文化施設の大規模改修（横浜美術館大規模改修事業及び横浜能楽堂大規模改修事業の一部） p. 25

横浜美術館の大規模改修では、照明のLED化や空調の全面更新により大幅な二酸化炭素排出量削減を見込んでいるほか、横浜能楽堂の大規模改修では、太陽光パネルの設置、照明のLED化、空調ダクト更新など、二酸化炭素排出量削減に寄与する改修項目を採用しています。

Ⅲ 令和5年度 にぎわいスポーツ文化局 予算総括表

(単位：千円)

科 目	5年度 予算額	4年度 予算額	差 引 増△減	前年比 (%)	主 な 増 減 事 業
にぎわいスポーツ文化局	23,015,921	26,243,641	△ 3,227,720	△ 12.3	
3款 市 民 費	4,944,676	3,694,351	1,250,325	33.8	
1項 市 民 行 政 費	4,944,676	3,694,351	1,250,325	33.8	
4目 スポーツ振興費	4,944,676	3,694,351	1,250,325	33.8	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜文化体育館再整備事業 1,202,605千円増 ・屋外プール再整備事業 382,819千円増 ・スポーツ施設管理運営事業 △ 408,344千円
4款 文 化 観 光 費	18,071,245	22,549,290	△ 4,478,045	△ 19.9	
1項 文 化 観 光 費	18,071,245	22,549,290	△ 4,478,045	△ 19.9	
1目 文化観光総務費	1,142,676	1,243,873	△ 101,197	△ 8.1	<ul style="list-style-type: none"> ・調査分析事業 5,000千円増 ・職員人件費 △ 107,687千円
2目 文化芸術創造 都市推進費	11,843,267	15,771,413	△ 3,928,146	△ 24.9	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術館大規模改修事業 451,382千円増 ・横浜みなとみらいホール大規模 改修事業 △ 3,266,391千円 ・文化施設整備事業 △ 923,926千円
3目 文化プログラム 推 進 費	486,305	463,132	23,173	5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレ事業 290,000千円増 ・文化芸術による賑わい創出事業 61,455千円増 ・横浜芸術アクション事業 △ 327,956千円
4目 観光MICE 振 興 費	4,598,997	5,070,872	△ 471,875	△ 9.3	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的誘客プロモーション事業 129,183千円増 ・MICE誘致・開催支援事業 △ 424,975千円 ・市内観光復興支援事業 △ 300,000千円

IV 予算科目別内訳

1	3款1項4目 スポーツ 振興費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国・県 千円	市債 千円	その他 千円	一般財源 千円
		4,944,676	3,694,351	1,250,325	17,389	757,000	60,232	4,110,055

スポーツ振興部

- (1) **スポーツ関係団体支援事業** **438,232千円** (前年度 447,188千円)
 スポーツ推進委員や横浜市スポーツ協会をはじめとするスポーツ団体等との連携・協働により、誰でも身近な場所で気軽にスポーツを楽しむ環境をつくります。
- (2) **子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業** **14,999千円** (前年度 —)
 子どもや子育て世代のスポーツ活動を促進するため、児童生徒を対象としたラグビーやインクルーシブスポーツ等の体験会や親子で共に楽しめるスポーツの場を提供します。
- (3) **スポーツ推進審議会費** **2,080千円** (前年度 3,844千円)
 スポーツの推進について審議するため、外部有識者で構成するスポーツ推進審議会を開催します。
- (4) **学校施設への夜間照明設置事業** **3,556千円** (前年度 47,966千円)
 スポーツをする場を拡充し、地域で気軽にスポーツに親しむ機会を創出するため、市内小中学校校庭への夜間照明設置に向けた準備を進めます。
- (5) **市民参加型スポーツ推進事業** **17,176千円** (前年度 15,691千円)
 市民が身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりを推進するため、市民参加型スポーツイベントの開催支援をするとともに、デジタル技術を活用したスポーツに触れる機会を創出します。
- (6) **横浜マラソン開催事業** **101,200千円** (前年度 101,000千円)
 子どもから大人まで誰もが参加でき、「する」「みる」「ささえる」すべての人が楽しめる大会を開催し、市民の健康増進やまちのにぎわいづくりを図ります。
- (7) **インクルーシブスポーツ推進事業** **11,106千円** (前年度 10,710千円)
 共生社会の実現を目指し、関係団体や学校等と連携しながら、年齢や障害の有無などにかかわらず親しめるインクルーシブスポーツを推進します。
- (8) **スポーツ国際交流事業** **1,500千円** (前年度 6,845千円)
 仁川広域市、台北市及び英国等とのスポーツを通じた交流事業を行います。

(9) 大規模スポーツイベント等開催支援事業 **101,484千円** (前年度 67,159千円)

「2023ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」をはじめとする、大規模スポーツイベントの誘致・開催支援等を行うことで、トップアスリートの競技を観戦できる機会を創出するとともに、多くの来訪者の市内回遊を促進し、地域経済の活性化につなげます。

(10) トップスポーツチーム連携事業 **4,473千円** (前年度 4,713千円)

横浜を本拠地とする13のトップスポーツチームとの連携・協働体制である「横浜スポーツパートナーズ」を通じて、スポーツ振興や地域活性化につながる様々な取組を推進します。

(11) スポーツボランティア育成事業 **5,806千円** (前年度 5,964千円)

横浜市スポーツ協会が運営する「横浜市スポーツボランティアセンター」を通じたボランティアの登録・育成・活用や、競技団体が開催する講習会による地域のスポーツ指導者育成等を推進します。

(12) 屋外プール再整備事業 **407,819千円** (前年度 25,000千円)

本牧市民プールについて、5年7月の供用開始に向けた準備を進めます。

(13) 横浜文化体育館再整備事業 **2,104,736千円** (前年度 902,131千円)

6年4月の供用開始に向けて、引き続き横浜BUNTAIの工事を進めます。また、PFI事業契約に基づき、横浜武道館の維持管理・運営を行います。

(14) 横浜国際プール利活用検討事業 **10,000千円** (前年度 —)

地域活性化に向けた施設のあり方について検討し、利活用の基本計画を策定します。

(15) スポーツ施設管理運営事業 **1,561,616千円** (前年度 1,969,960千円)

各スポーツ施設の管理運営や必要な施設修繕等を実施します。

ア 特定天井脱落対策 **493,868千円**
特定天井脱落対策として、スポーツセンター等の天井改修を行います。
【実施設計】金沢、都筑、瀬谷 【工事】中、緑、たきがしら会館

イ 体育室空調機設置 **298,045千円**
体育室に空調機を設置していないスポーツセンター等に空調機を設置します。
【基本設計】南、泉【実施設計】金沢、瀬谷【工事】中、緑、たきがしら会館

ウ 体育館、プール等の運営等 **769,703千円**
体育館やプール等のスポーツ振興課所管施設の管理運営を行うとともに、各区所管スポーツセンターの修繕等を実施します。

(16) 市民利用施設予約システム事業 **158,893千円** (前年度 68,160千円)

施設利用の利便性向上のため、施設の予約抽選申込み等をインターネット及び電話にて受け付けます。また、市民利用施設予約システムについてキャッシュレス決済の導入等を含めた次期システム開発を引き続き進め、5年秋に利用を開始します。

【他事業への事業統合】

(地域スポーツ事業) (前年度 8,651千円)

(ジュニア競技力向上事業) (前年度 2,894千円)

(スポーツ推進委員支援事業) (前年度 6,475千円)

2	4款1項1目 文化観光費 総務	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国・県 千円	市債 千円	その他 千円	一般財源 千円
		1,142,676	1,243,873	101,197	—	—	30	1,142,646

総務部

- (1) 調査分析事業** **15,264千円** (前年度 10,264千円)
 施策を効果的に実施し、市内のにぎわい形成、経済の活性化、地域コミュニティ活性化、文化芸術によるまちづくりにつなげていくため、現状分析及び企画立案の基礎資料を収集します。
 具体的には、市内の文化観光施設に関する認知度・訪問意欲等の把握や、他都市との比較による都市の魅力等に関する調査を実施します。
- (2) 開港記念式典開催事業** **5,680千円** (前年度 5,680千円)
 開港記念日（6月2日）に市民の皆様や市政関係者とともにお開港を祝い、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表するため、開港記念式典を開催します。
- (3) 総務費** **14,385千円** (前年度 12,895千円)
 にぎわいスポーツ文化局職員の人材育成事業などを実施します。
- (4) 職員人件費** **1,107,347千円** (前年度 1,215,034千円)
 にぎわいスポーツ文化局職員の人件費を計上します。

3	4款1項2目 文化芸術 創造都市 推進費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国・県 千円	市債 千円	その他 千円	一般財源 千円
		11,843,267	15,771,413	3,928,146	103,047	6,781,000	75,614	4,883,606

文化芸術創造都市推進部

(1) 創造界限形成事業 286,201千円 (前年度 299,167千円)

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を活用した創造界限拠点として、旧第一銀行横浜支店、BankART1929（文化芸術創造発信拠点）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、初黄・日ノ出町地区（地域再生まちづくり）、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）の運営・管理を行い、創造的な人材や地域との連携を通して、まちづくりを進めます。

(2) アーツコミッション事業 34,360千円 (前年度 38,600千円)

文化芸術と企業・市民等の様々な主体をつなぐプラットフォームを形成し、子育て世代をはじめとした市民が文化芸術に触れる機会をつくと共に、都心臨海部の回遊性促進等を進め、文化芸術の持つ創造性をいかしたにぎわいづくりと国内外における文化芸術創造都市としてのプレゼンスを高めます。

(3) 創造的イルミネーション事業 400,000千円 (前年度 388,000千円)

横浜のナイトタイムエコノミー活性化の契機とするため、都心臨海部において先端技術を用いた光と音楽の演出により、横浜ならではの港の夜景を官民一体で創出します。

よりダイナミックな演出とするため、参加施設数を増やすとともに、イベントと併せ、来場者に夜の横浜を楽しんでいただけるよう、地域のイルミネーション等と連携した街の回遊促進の取組も実施します。

(4) 映像文化都市づくり推進事業 17,529千円 (前年度 18,519千円)

市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を引き続き実施することで、映像文化における次世代育成等を推進します。

(5) 創造都市推進事業 62,038千円 (前年度 35,538千円)

国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場として「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を開催し、都心臨海部の活性化を図るとともに、横浜発の舞台芸術を発信することで、「文化芸術創造都市・横浜」としてのプレゼンスを高めます。

また、日本最大規模のジャズフェスティバルである「横濱JAZZ PROMENADE」の開催を引き続き支援し、民間事業者等と連携しながら、来街者の回遊性の向上や、街のにぎわい創出につなげます。

(6) 芸術文化教育プログラム推進事業 **34,940千円** (前年度 34,940千円)

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、学校の先生とアーティストのコーディネートを担当することで、各学校の目的に沿った効果的なプログラムの実施を支援します。

(7) 地域文化サポート事業 **31,000千円** (前年度 33,000千円)

地域課題の解決にアプローチするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティや街の活性化と結びつける取組や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を公募し、支援します。

また、採択団体等のサポートのため、まちづくりなどの分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌（季刊「ヨコハマアートサイト」）の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。

(8) クラシック・ヨコハマ推進事業 **9,000千円** (前年度 9,000千円)

国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」の開催に合わせ、コンクール出場経験者をはじめ、国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供すること及び市民の皆様身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、市内の様々な会場でクラシック音楽のコンサートを実施します。

また、コンクールでは、市民の皆様が選ぶ聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。

**(9) ミュージック・マスタース・コース・
ジャパン推進事業** **5,000千円** (前年度 6,000千円)

次世代を担う演奏家の育成を目的に選抜された若手演奏家に対して、市内で演奏の機会を提供し、市民の皆様を招待します。

(10) 芸術文化支援事業 **33,900千円** (前年度 57,900千円)

音楽、美術、舞台芸術などの分野において、市内の文化芸術活動の基盤となる文化事業を支援します。

(11) 文化施設運営事業 **3,492,516千円** (前年度 3,664,752千円)

関内ホール、横浜にぎわい座、市民ギャラリー等の文化施設の運営及び修繕等を行うほか、キャッシュレス決済等の新たな機能を装備した市民利用施設予約システムを稼働します。

また、区民文化センターの天井耐震化に向けて、鶴見区で工事を行います。

○ 横浜美術館運営費	744,093千円
○ 横浜みなとみらいホール運営費	514,731千円
○ 横浜能楽堂運営費	183,070千円
○ 横浜にぎわい座運営費	221,884千円
○ 関内ホール等文化施設運営費	1,157,370千円
○ 区民文化センター天井脱落対策費	249,576千円
○ 次期予約システム開発費	132,004千円
○ 文化施設修繕費等	289,788千円

(12) 横浜美術館大規模改修事業 **6,746,683千円** (前年度 6,295,301千円)

美術作品を展示、保存するうえで重要な空調設備をはじめ、電気や衛生設備等の設備機器が老朽化しているため、長寿命化を図ります。

また、展示環境の改善や、高齢者、障害者等のためのバリアフリー対応、収蔵庫の拡張等を行います。

5年度は引き続き改修工事を行います。

なお、工事による休館期間中は「プロット48」等で、市民向けワークショップ等を実施します。

(13) 横浜能楽堂大規模改修事業 **88,140千円** (前年度 81,321千円)

利用者の安全を確保するため、能舞台のある客席の天井の耐震化に向けた工事に加え、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図ります。

5年度は工事に着手します。

なお、工事による休館期間中は事務所を移転し、アウトリーチ事業等の実施を予定しています。

(14) 文化施設整備事業 **578,997千円** (前年度 1,502,923千円)

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うことができるよう、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備し、文化芸術創造都市の裾野を広げます。

港北区では、6年3月の開館に向けた準備を進めるとともに、床取得費の支払いを完了します。都筑区では、しゅん工に向けた工事の調整を引き続き事業者と行います。また、金沢区では、金沢区における区民文化センター基本構想を踏まえた基本設計に着手します。

○ 区民文化センター整備

- ・ 港北区：床取得費等 **536,197千円**
(新綱島駅前地区第一種市街地再開発事業の中での整備)
- ・ 都筑区：設計施工アドバイザー等 **3,800千円**
(都筑区における区民文化センター等整備予定地活用事業の中での整備)
- ・ 金沢区：基本設計等 **39,000千円**

(15) その他の文化振興事業 **22,963千円** (前年度 40,061千円)

横浜文化賞の贈呈のほか、指定管理者選定評価委員会の開催等を行います。

【終了事業】

(横浜みなとみらいホール大規模改修事業)

(前年度 3,266,391千円)

4	4款1項3目 文化 プログラム 推進費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国・県 千円	市債 千円	その他 千円	一般財源 千円
		486,305	463,132	23,173	—	—	5,000	481,305

文化芸術創造都市推進部

(1) 横浜トリエンナーレ事業 415,000千円 (前年度 125,000千円)

我が国を代表する現代アートの国際展、「第8回横浜トリエンナーレ」を6年3月15日から6月9日までの約80日間、横浜美術館などを中心に開催します。

ひらかれた現代アートの祭典として、ファミリー層や将来を担う子どもたちが気軽にアートに触れる機会を提供することで、多様性を受け入れる心豊かな社会での形成に寄与します。

また、地域の企業・団体と協力し、みなとまち横浜の歴史や景観などのリソースをこれまで以上に活用することで、都心臨海部のサテライト会場などを回遊しながら楽しめる展覧会とし、街のにぎわいを創出します。

(2) 文化芸術による賑わい創出事業 61,455千円 (前年度 —)

民間アリーナやホールなどの文化芸術資源の集積を生かし、民間事業者との更なる連携を進めることで、誰もが楽しめるアートイベントの開催などを検討し、街のにぎわい創出、都市のブランディングを図ります。

(3) 日中韓都市間文化交流事業 8,000千円 (前年度 8,000千円)

「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づいて、引き続き、中国泉州市及び韓国光州広域市と、アーティストや芸術団体の派遣・招へい等を通じた都市間文化交流を行います。

(4) 文化プログラム推進事業 1,850千円 (前年度 2,176千円)

横浜ならではの文化プログラムを推進するための事務経費等

【終了事業】

(横浜芸術アクション事業)

(前年度 327,956千円)

5	4款1項4目 観光MICE 振興費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国・県 千円	市債 千円	その他 千円	一般財源 千円
		4,598,997	5,070,872	471,875	20,000	—	1,007,362	3,571,635

にぎわい創出戦略部

観光MICE振興部

(1) 戦略的誘客プロモーション事業

248,642千円 (前年度 119,459千円)

国内向けには、リピーターをはじめ旅行者の獲得に向けた市内観光施設の割引等の観光キャンペーンや、旅行会社向けの地方セールスを実施します。常に新しい発見があり何度でも訪れたいくなる横浜の魅力を発信するとともに、閑散期の需要喚起策等により、年間を通じた市内宿泊や回遊を促進します。

海外向けには、航空便や各国の訪日市場の回復状況などを踏まえ、OTA等を活用した戦略的なデジタルプロモーションを行い、市内へのインバウンド誘客を図ります。

また、観光レップによる情報発信や現地旅行会社へのセールス・プロモーション、商談会への参加等を実施します。加えて、クルーズ・フレンドリー・プログラムを実施し、クルーズ旅客等の市内回遊を促進します。

あわせて、横浜の観光公式ウェブサイト「横浜観光情報」やSNS等を活用して、国内外に向けて横浜の観光・MICEに関する情報を発信します。

(2) 受入環境整備事業

52,204千円 (前年度 47,182千円)

市内3か所の観光案内所を運営するとともに民間観光案内所を支援し、受入環境の向上を図ります。あわせて、観光案内所の運営手法検討に向けた実証実験を行います。

また、市内宿泊施設等のバリアフリー情報の発信や市内事業者向けセミナーを実施し、ユニバーサルツーリズムを推進します。

(3) 三溪園施設整備等支援事業

197,706千円 (前年度 182,414千円)

重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、工期を3期に分け、緊急度の高い建造物から実施しています。

5年度は、旧東慶寺仏殿及び月華殿の工事に対し支援します。

また、観光施設としての機能強化に向けた用途制限の緩和や、季節に応じた催事の創意工夫などの新たな魅力創出に取り組みます。

(4) 戦略的賑わい創出事業

79,000千円 (前年度 —)

音楽アリーナの集積等を契機に、多くの人が集まるイベントを活用した戦略的な宿泊・回遊促進策に取り組むことで、にぎわいを創出し、市内経済の活性化に結び付けます。

コンサート、エンタテインメント、スポーツなどのイベント主催者や商業施設等の民間事業者と連携したプロモーションなどを行い、イベント前後の回遊を促進させるとともに、宿泊事業者と連携し、イベント開催時の宿泊につなげるなど、様々な事業者が参画し、にぎわいを創出する仕組みづくりを進めます。

(5) DMO推進事業 **121,423千円** (前年度 26,500千円)

登録DMOとなった(公財)横浜観光コンベンション・ビューローが中心となり、観光地域づくりフォーラムを開催し、多様な関係者を巻き込んだ体制を構築します。また、人流データの分析や、来訪意欲調査等の様々な調査を実施するなど、DMOのマーケティング機能を強化し、戦略的な施策を展開します。

(6) 観光施設維持管理事業 **118,442千円** (前年度 108,681千円)

本市の観光振興を図るため、所管施設(横浜人形の家、横浜マリントワー等)の維持管理・運営を行います。

(7) ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業 **1,500千円** (前年度 1,503千円)

ブランドプロモーション等、販売促進につながる事業に対する支援を行うことで、横浜観光の魅力向上、市内経済の活性化を図ります。

(8) 観光振興事業 **38,584千円** (前年度 49,126千円)

国内外からの来訪者の実態を把握し、観光施策立案の基礎データとして活用するため、観光動態・消費動向調査を実施します。

また、横浜が官民一体で推進していく観光・MICEの方向性を示すため、「横浜市観光・MICE戦略」を策定します。

(9) MICE誘致・開催支援事業 **385,913千円** (前年度 810,888千円)

アフターコンベンションの充実等、参加者増・観光消費額増につながる魅力づくりや、関連産業育成・ビジネス機会拡大に向けた取組を推進することで、市内経済の活性化を図ります。

あわせて、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等の誘致を加速し、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。

また、横浜の歴史と魅力を生かした大規模集客イベントに対し、開催に向けて支援することで、街のにぎわいを創出します。

(10) 減債基金積立金 **57,592千円** (前年度 58,016千円)

(株)横浜国際平和会議場貸付金について、利子収入を減債基金に積み立てます。

(11) 20街区MICE施設整備運営事業 **3,297,991千円** (前年度 3,297,903千円)

「パシフィコ横浜ノース」について、PFI事業により維持管理及び運営を行います。新たな顧客開拓・市場創出に取り組み、地域経済の発展・にぎわい創出へ貢献します。

【終了事業】

(市内観光復興支援事業) (前年度 300,000千円)

(観光資源魅力アップ事業) (前年度 69,200千円)

・株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を設定。

（5年度設定額：1,872,000千円（4年度設定額：2,340,000千円））

（設定期間：令和5年4月～9年3月）

1 団体の概要

<事業目的>

国際・国内会議及び学術会議等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

<設 立>

昭和62年6月3日

<基本金>

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

2 団体の経営状況：令和3年度決算

・売上高 7,746,291千円 ・売上原価 6,882,501千円
・営業利益 9,704千円 ・当期純利益 △206,535千円

3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを意思決定している。

4 対象債務の返済の見通しとその確実性

4年度は催事件数も回復し収支も好転してきている。引き続き、売上の確保及び経費削減に取り組み、9年3月までに対象債務を返済する見通しである。

The logo for the Yokohama Marathon 2023 features a stylized blue wave shape at the top, composed of a grid of dots in various colors (blue, pink, yellow, green, black) that transition into the text below. The text "YOKOHAMA MARATHON" is written in a bold, black, sans-serif font, with "YOKOHAMA" on the top line and "MARATHON" on the bottom line. Below this, the year "2023" is displayed in a large, bold, blue font.

**YOKOHAMA
MARATHON**
2023



横浜トリエンナーレ
YOKOHAMA TRIENNALE